

# 秋田美人を育む麴とりんごの力

今 野 宏

(株式会社秋田今野商店 代表取締役社長)



## 秋田美人はなぜ肌がきれいなのか

秋田美人の白くみずみずしいきめ細かな肌は、低温多湿な秋田の環境が大きく影響しているといわれています。

以前「知られざる世界」というテレビ番組で秋田美人が取り上げられたことがありました。秋田美人の肌は皮溝（ひこう）と皮丘（ひきゅう）をかたどる皮紋（ひもん）がくっきりとしていて整然と並び、しかも細かいというのが特徴とのこと。皮紋は30～40代になると溝と丘が平坦になっていき70～80代になると消えていくものですが、秋田美人の肌は年をとっても皮紋がなかなか消えないのだそうです。

秋田は雪国です。雪は湿気を含んでおり、肌の水分も十分に補給されます。寒いので汗腺の働きも活発ではありません。肌にとってのいい条件が全て整っているのです。

肌の色を作る要素にメラニンがあります。これは紫外線の影響を受けやすいのですが、昔から秋田の女性は雪からの紫外線が意外に強いことを生活の知恵で知っていたのでしょう。角巻などですっぽりと顔を隠すことで冬の寒さとともに紫外線を防いでいました。紫外線は肌にとっては大敵で、シミだけでなくしわもできやすくなるのです。例えば1年間ビタミンCを摂り続けると確かに白くなる効果は期待できますが、そんな涙ぐましい努力も1日紫外線にあたっただけで全て水の泡になってしまうほどです。

また、秋田女性の色白の理由の一つには遺伝説もあり、アイヌや白系ロシアの血が混じっているからと考える専門家も多くみられます。

このように肌の白さは紫外線量の少なさなどの気象条件のほか、遺伝的資質等によるものと考えられていますが、これに加え日常の食生活が美肌をつくる大きな要因であることが知られてきました。

## 美人を育む麴の力

日本の中で秋田県ほど食生活に麴を取り入れてきた地域はありません。秋田の先達は飽きることなく飲んで美味く、食しては美味な高度な味を麴に求めてきました。麴を多用した伝統発酵食品を食べてきた人生のベテラン女性の肌の美しさは、他県から来た方々を驚かせます。

麴には多くの薬理効果が見出されていて、醸造食品だけでなく医薬品や化粧品にも利用されています。そのひとつが今美白効果で注目を集めている、麴菌のつくる麴酸です。研究のきっかけは「麴づくりをする杜氏の手は白くなる」と言われていることでした。肌の色を黒くするメラニンはチロシナーゼという酵素の働きでつくられます。麴酸にはこのチロシナーゼを阻害する作用があります。またメラニンの色を薄くする働きもあるのです。実際、麴酸を加えた水槽でデメキンを飼うと明らかに色が薄くなつてきます。

カニやエビは水揚げ後にチロシナーゼが働き着色していきませんが、その着色反応を麴酸が抑える働きをします。従来のチロシナーゼ抑制剤には二酸化硫黄が使われていましたが、食品衛生法でその使用が規制されたため現在では麴酸を他の鮮度保持剤に配合して使用されていま

す。麴酸は化学合成でつくるのが困難で、糖類で麴菌を培養することにより容易につくられています。

また、麴菌はエルゴチオネインという強力な抗酸化作用を持つ物質もつくります。その抗酸化力はビタミンEの約7,000倍もあり、医薬品や化粧品への利用が進んでいます。さらにエルゴチオネインは肌の張りや弾力を保つエラスチンを守り、麴酸と同様にシミの原因になるチロシナーゼの働きを阻害します。

この驚くべき働きをするエルゴチオネイン、実は茸類や麴菌、酵母など一部の微生物にしかつくれないものなのです。

### 美人を育くむりんごの力

もうひとつ秋田美人を育む素材を紹介しましょう。りんごです。令和3年の全国のりんご生産量は66万2千トン弱。青森県と長野県でその約80%を占めています。秋田県は3%ほどで全国5位の生産量です。全国で生産されたりんごの大部分は生食用になりますが、一部はりんごジュース用に搾汁され、その際に排出される搾汁残渣の排出量は1万1千トンにも及びます。飼料や堆肥、土壌改良剤などとして利用されているものの、そのほとんどが産業廃棄物として多額の費用をかけて処分しているのが現状です。

以前ある銀行マンと「お金をかけて産業廃棄物処理していたものに新たなより高い付加価値がつけば地域産業への経済波及効果が生まれるのになあ」と夢を語り合いました。実は私には妙案がありました。15年ほど前に行った北海道農業研究機構と広島製の薬会社と弊社の共同研究で、「りんごに沢山のセラミドが含まれている」ことを知っていたからです。りんご搾汁残渣には食物繊維をはじめペクチンやポリフェノール等の機能性成分が残っているため、機能性食品素材として付加価値の高い利用が期待されています。

さてそのセラミドですが、肌に大切な成分であることは皆さんご存知のことと思います。セラミドは脂肪酸にスフィンゴ脂質と呼ばれる、人の皮膚の最上層である角質層に多く存在する皮膚機能改善脂質で、皮膚の水分蒸発を抑制することが知られています。脳にもたくさん含まれています。セラミドはスキンケアの観点から美容の面で注目が集まっていますが、近年はアレルギー、糖尿病、がん治療対策面でも注目が集まっています。市場価格もスキンケア素材中で最も高価でかつ成長が期待される素材です。セラミドは化学合成品あるいは天然物として動物由来のものが利用されてきましたが、化学合成品には安全性の観点からその利用が制限されており、また動物由来のものは脳に多く含まれているため、狂牛病（BSE）等の感染症の問題で利用が困難になっています。こうした点から植物由来のセラミド利用量が増加しています。現在は主に米糠や小麦胚芽から抽出されていますが、含有量はせいぜい1gあたり0.0001gほどの微量です。ところがりんごの「ふじ」の中には1gあたり最大で0.1gもセラミドを含むものもあるから驚きです。これは小麦胚芽の1,000倍の含有量です。

美しくなるための沢山の商品が世をにぎわしていますが、りんごは美容と健康に関するイメージが他を圧倒しているため、これはかなり有望な化粧品素材になるかもしれません。既に化粧品メーカーもそれを嗅ぎつけて新たな開発研究をスタートしています。秋田生まれのりんごはほとんどが「ふじ」です。秋田美人を育てた、その美肌の秘密のひとつは、やはり「ふじ」りんごのセラミドにあるのかもしれません。

実は私たちの身の周りには、素晴らしい沢山の天然素材が足元にあるのです。秋田に生まれ育った私たちが、これを上手に生かす事が出来れば素敵なことだと思います。